



# 農協だより

## 農業者戸別所得補償制度の説明会

平成 22 年度の米戸別補償モデル対策は、管内 2,617 軒に営農計画書を配布して 438 軒がモデル対策の加入者でした。23 年度は、22 年度の米の需要量に関する情報が市、町により 2~10% 減少しております。3 月に地域水田農業推進協議会より農家の皆様へ「23 年産米の生産数量の調整について（お願い）」ということで 23 年度の水稲作付目標面積が通知されました。

農業者戸別所得補償制度に加入する場合は、23 年度の水稲作付目標面積を守らなければいけませんので注意してください。

説明会(3/10 熊野町、3/23 熊野町・東海田、3/24 瀬野・阿戸)では、広島農政事務所より農業者戸別補償制度についてパンフレットで 22 年度とほぼ同じ「米の所得補償交付金」、「水田活用の所得補償交付金」、新規に始まる「畑作物の所得補償交付金」の説明がありました。また、「対象者チェックシート」によりわかりやすく説明されました。

生産者の方から「大豆を作付けした時の販売契約書」や「不作付地の改善書」、「変動部分の交付単価」等の質問があり充実した説明会になりました。

## 水稲種籾の温湯消毒



今年も 3 月 17~4 月 22 日までの間で 8 日実施しています。種籾の温湯消毒は、60℃のお湯に 10 分間種籾を浸して熱によってばか苗病、シンガレセンチュウ等多くの病害虫を防除する方法です。農薬を使わないので、環境にやさしく食の安全・安心につながる技術として全国に広がっています。昨年は 154 名の生産農家の方にご利用いただきました。管内においては育苗センター分も合わせて今年度の温湯消毒種籾は、約 4,500 kg を予定しています。ご利用される農家の方は費用も安く安全な米作りが出来ると喜んでいただいています。

## 農機具事故



国内で農機具による事故で毎年約 400 名の方が亡くなっています。注意を呼びかけていますが、減少していない状況です。別紙「乗用型トラクターの事故に関する安全対策のポイント」のチラシを同封しておりますのでご覧ください。



## 有害鳥獣対策について

現在、有害鳥獣として困っているのは、イノシシ、シカ、サル、ヌートリア、タヌキ、ノウサギ、キツネ、アナグマ、アライグマ、ヒヨドリ、カラス他があります。主に被害発生時期として 2 月~10 月までほぼ年間を通してです。昨年は、ヌートリアによる被害が水田、畑のあちこちでみられ原因がわからないと問い合わせがありました。

行政もいろいろ手を尽くしていますが、対策が間に合わない状態です。農家の皆様も悩まれていることと思います。平成 23 年度に防護柵の設置をお考えの方は、市町で助成事業に取り組んでいますので下記窓口へお問い合わせください。

助成の対象として設置の条件・補助金の交付額が違うので必ずお問い合わせください。

地区	対象	
広島市	電気柵・捕獲柵 防護柵	広島県西部農業共済組合農産園芸課 (0826-72-3107) JA 安芸 営農指導センター (082-822-0104)
海田町	電気柵・防護柵	海田町役場 都市整備課 (082-823-9634)
熊野町	電気柵・防護柵	熊野町役場 都市整備課 (082-820-5608)
坂町	電気柵・防護柵	坂町役場 産業建設課 (082-820-1512)



## 瀬野川農事研究会総会

平成 22 年度瀬野川農事研究会総会が平成 23 年 3 月 14 日中野公民館で行われました。(現在会員数 82 名)

まず、会長より「平成 22 年度も各部会でいろいろな展示圃、研究会、視察研修会を行い、会としての技術は上がり大きな力となりました。この力を発揮してこれからも頑張りましょう」とあいさつがありました。展示圃では、葉タマネギの貴錦の栽培、キャベツのとんがり帽子、だいこんの白肌美人、無加温ハウス栽培、セロシヤ栽培等を行い良い成果を出すことができました。



品評会の表彰式では、ブドウ、みずなの審査講評を広島市技術員より、「ブドウについては高温により着色が悪い年になりましたが酸味が抜け糖度の高い良いものが生産されました。みずなについては、最近の天候は、は種時期のタイミングをつかむのが難しくなっている。病害虫の発生の多い年でしたが市場でも評価される良いものが生産されました。」と報告がありました。

ブドウの部で 7 名、みずなの部で 1 名が表彰されました。平成 22 年度事業報告及び収支決算、平成 23 年度事業計画にともなう予算案について承認されました。

## 活菜倶楽部訪問!



3 月初旬に活菜倶楽部の商品棚を見学に行きました。午前中の商品棚には、商品も多く野菜を置くスペースがないとお声を聞いておりましたが、午後からは陳列商品が少ないため会員の皆様には夕方の混雑時に商品が切れないように出荷をお願い致します。また、暖かくなり病害虫の発生する時期になりました。生育期間中に防虫ネットなどの資材を利用し病害虫被害の軽減に努め、出荷の際には被害がなく虫が付いていない野菜の出荷をお願い致します。

# 4月営農メモ

## 水稲

### 稲作育苗ポイント

**塩水選** 塩水選で不良籾を除くことで、生育が揃い、病害虫の発生を抑えることが出来ます。必ず行ってください。

※購入種子も同様に（風選のみ）

- ・種籾についての塩を流水で充分洗い、水切りをしてください。
- ・塩水選終了後、すぐに種子消毒をしない場合は十分に（水分15%）乾かしてください。

**種子消毒** これによって、いもち病、ばか苗病、籾枯細菌病及びイネシンガレセンチュウを防除します。

- 【薬液消毒】
- ・消毒は浸漬の前に行います。
  - ・薬液の温度は、効果が落ちるため10℃以下にならないようにしてください。
  - ・薬液のとりの悪い布袋などの使用は避けてください。
  - ・種子消毒後の水洗いはしないでください。
  - ・はじめ薬液が付くよう消毒ネットをよくゆすり、気泡を取るようにつけてください。

【風乾】（種子消毒が済んで効果を高めるために）

- ・薬液から引き上げた種籾を一昼夜日陰において、薬液を固着させます。

【温湯消毒】 ※なるべく自家採取した籾は避けてください。

- ・60℃のお湯に10分漬ける事によって薬液消毒と同等の効果があり、廃液も出さず環境にやさしい防除方法として注目されています。
- ・塩水選終了後ただちに実施します。1時間以後は時間経過とともに発芽率が低下しますので事前に塩水選を済まされる場合は充分乾燥（15%）させてください。
- ・温湯消毒後すぐに浸漬しない場合は、日陰でネットのまま吊るすか、清潔なブルーシート（むしろ等は使用しない）に広げ十分に乾燥（水分15%）させてから清潔な保管してください。
- ・温湯消毒した種籾は農薬による消毒と異なり、消毒後の感染に無防備です。殺菌後は絶対に病原菌等（無処理の籾）に接触しない様に注意してください。

**浸漬** 浸漬時間の目安は、積算温度100℃です。（10～15℃の水に7～10日の浸漬）

【方法】 ①種籾10kgに対して、水40ℓ必要です。（酸化防止）

- ②種籾を網袋に少なめ（消毒ネットに4kg以内）に入れ水に漬けてください。
- ③最初の3日は水の交換はせず、4～6日おき、7日以降は毎日交換してください。

## 果樹

昨年は、ぶどうの黒とう病の発生が多く困られたことと思います。黒とう病が、どんな病気で対策はどのようにしたら良いのか。

菌の分類は糸状菌で、多発時期はぶどうの展葉初期～梅雨時、気温は20～25℃で降雨の多いとき、発生部位は枝、新梢、葉柄、果実、花穂、いずれも未硬化の若い組織。

症状は、葉の場合は、葉脈に黒褐色で中央部が灰白色の円形病斑を生じ、ひどいと葉が枯れる。果実は、果実に径2～5mmくらいのややへこんだ暗褐色で裂け目のある病斑を多数生じる。

対策は、6月になって果実に症状がみえてからでは遅く春先からの防除が大切です。まず、伝染源対策として前年の巻きヒゲは、全部取り除く。母枝の粗皮剥ぎを行う。

一次伝染対策は、雨媒伝染するので雨よけ栽培が有効です。露地栽培では薬剤散布を行います。薬剤散布は、発芽して展葉が始まるとすぐに感染します。できるだけ発芽直前に散布するほうが効果が高い。（キノンドー水和剤）また展葉3～5枚頃と展葉7～8枚頃の2回散布して一次伝染による発病を抑えます。芽、葉、新梢、母枝に丁寧に散布します。

野菜 は、別紙にあります。

### 【注意点】

- ①発芽しにくい品種（コシヒカリ、ヒノヒカリ、あきろまんなど）は2日程度長めに浸漬してください。
- ②水温が低い状態（10℃以下）で浸漬時間が長くなりすぎると、細菌が発生しやすくなります。
- ③温湯消毒の場合は早めに芽を切ることがあります。またヌメリが出やすいので、水交換は2日目から行ってください。
- ④今年の種もみは、目覚めの遅い籾が混在している可能性があるようです。そのような籾は発芽に時間を要し、揃いも悪くなりますので水温10～15度の水で浸種を徹底して下さい。

**芽出し** ハト胸状態（1mmまで）に出させます。この時、酸素不足や、35℃以上にならないよう注意してください。育苗器（30℃で約24時間）や風呂の残り湯（始め35℃から2～3日利用します）

**播種** 籾は薄播きにしましょう。密植は苗の徒長・老化・病害虫発生につながります。

播種量(稚苗)	催芽籾	ヒノヒカリ	180g
		コシヒカリ	150g

- ①育苗箱に床土を入れた後、底から水がしみ出すまで十分灌水します。
- ②播種後、ダコレード水和剤500倍液を1箱当たり0.5ℓジョロなどで散布。水10ℓにダコレート20gで500倍液が作れます。（20箱分）
- ③籾がかくれる程度に覆土後に灌水すると酸欠の原因になります。
- ④過湿防止の為箱から水が十分切れてから、育苗器などに入れてください。